

2023年度 教務部(全学教務委員会)(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定,実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異,実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善,対策を行い,次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
①ベンチマーク結果などを基にした教育改善 全学生数に占める退学者の割合は,4%以内を目標とする。学年ごとにみた退学者の目標値(過去3年間の平均算出)は,1年生:3.8%,2年生:4.2%,3年生:1.9%,4年生:3.3%以下である。その分析内容を教育改善に活かす。なお,学修状況調査の回収率は,2022年度を目安として60%以上とし,実施方法の検討・改善を各学部の教務委員会を中心に展開する。卒業生・就職先へのアンケートの分析を実施する。	教務部(全学教務委員会)におけるKPIである退学者と授業満足度を学部・学年ごとに調査し,教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行った。また分析結果を,教務部として共有し,次年度の教育改善に活かした。各学部により卒業生・就職先へのアンケートを分析し教育改善の検討を行った。	学修状況調査の回答率:全学:52.3% 外国語学部:18.7% 経営学部:30.63% 人間学部:60.64% 保健医療技術学部:85.8% 授業満足度(授業):全学:78.6% 外国語学部:78.0% 経営学部:72.4% 人間学部:80.2% 保健医療技術学部:79.3% 授業満足度(学修環境):全学:75.6% 外国語学部:79.7% 経営学部:68.3% 人間学部:79.8% 保健医療技術学部:73.8%	全学生数に占める退学者の割合は4.3%であり,昨年度の3.7%。一昨年度の3.0%に比較して増加した。学年別の結果を前年度と比較してみると,1年生:5.6%→6.2%,2年生:4.2%→6.5%,3年生:1.7%→1.9%,4年生:3.2%→2.9%であった。今年度は昨年度に引き続き特に1,2年生が高い値であった。学修状況調査の回答率は当初目標に掲げた60%に届かず52.3%となった。外国語学部,経営学部が低率であり回答の向上を目指す必要がある。授業満足度,学修環境満足度は,いずれも75%を超える結果となったが,学修状況調査の回答率が低いことからまずは回答率の向上を目指す必要がある。	全学教務委員会議事録,学修状況調査	退学者低減に向けた取り組みを行う学修状況調査の実施率向上と分析
②学修ポートフォリオの実施・分析 学修ポートフォリオに関する意識向上を,学生・教員に対してはたらしかせる。	DPの到達度を確認する目的で実施する学修ポートフォリオは,学生の自己評価,教員からのフィードバックともに100%を目標にはたらしかけた。DP到達度をB's LINKにて実施できる環境を作り全学的な取り組みとした。	学修ポートフォリオの実施率は以下の通り 外国語学部:全体:29.8% 1年生(目標):54.7% 1年生:26.3% 2年生:25.4% 3年生:22.4% 4年生:22.4% 経営学部:全体:25.9% 1年生(目標):78.3% 1年生:25.6% 2年生:11.6% 3年生:3.1% 4年生:3.1% 人間学部:全体:66.4% 1年生(目標):75.8% 1年生:75.2% 2年生:66.0% 3年生:66.0% 4年生:53.2% 保健医療技術学部:全体:97.6% 1年生(目標):94.9% 1年生:98.0% 2年生:99.3% 3年生:100% 4年生:95.9%	学修ポートフォリオを用いてDP到達度チェックを全学にて取組んでいる。外国語学部,人間学部,保健医療技術学部ではB's LINKを,経営学部では1年生がB's LINK,2-4年生はSales forceを用いて実施した。学部学科により,実施率のばらつきが見られた。経営学部では,特に3年次以降で低値であった。他の3学部は,50%を超える実施率であり,保健医療技術学部は100%に近い値であった。	全学教務委員会議事録	学修成果アセスメントの実施率向上と整理

2024年度 教務部(全学教務委員会)

PLAN(計画)
P:目標を策定,実現するための具体的な方法を考える。
①ベンチマーク結果などを基にした教育改善 全学生数に占める退学者の割合は,4%以内を目標とする。学年ごとにみた退学者の目標値(過去3年間の平均算出)は,1年生:5.1%,2年生:4.8%,3年生:1.8%,4年生:3.0%以下である。学部・学科の特性に合わせ個人面談,初年次教育,ゼミ活動などの少人数で学生と関わりコミュニケーションに努める。学生の学修状況について種々の学修成果アセスメント結果に基づき個別対応を行う。学修状況調査は継続して実施し,その分析内容を教育改善に活かす。回収率は,2023年度を目安として60%以上とし,実施方法の検討・改善を学部の教務委員会を中心に展開する。学修状況調査実施後には,教学IR委員会への分析依頼を速やかに行う(データを集約した教職員から直接,分析担当者に送信する)。退学者の要因分析を検討する。
②学修成果アセスメントの実施:DP到達度チェック(学修ポートフォリオ)の実施・分析 学修ポートフォリオに関する実施率を改善し意識向上を図るため学生・教員に対して各学部学部長,教務委員会を通じてはたらしかせる。 学修成果アセスメントについて整理統合を目的に検討する。

2023年度 教務部(全学教務委員会)(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定, 実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異, 実践した行動の評価・分析を行う。	評価	A:課題や問題点についての改善, 対策を行い, 次への「PLAN」へ繋げる
③外部評価アセスメント(GPS-Academic, PROGテスト)の実施・分析を継続実施し, その分析内容を教育改善に活かす。	GPS-Academic(1年生), PROGテスト(3年生)を対象に実施し, 教学IR委員会の協力を得てデータの分析を行う。また結果については, 学部ごとに教育への活用方法を検討する。	GPS-Academic(1年生), PROGテスト(3年生)の実施率は以下の通り。 外国語学部:1年生82.3%, 3年生:92.7% 経営学部:1年生88.3%, 3年生83.3% 人間学部:1年生:90%, 3年生:91.6%, 保健医療技術学部:1年生99.6%, 3年生97.7%	GPS-Academic(1年), PROGテスト(3年)を実施した。回答率は全学部とも80%を超える実施率であった。結果は, 教学IR委員会に依頼して分析を行い, 各学部で教育改善の検討を行った。	全学教務委員会議事録	実施率維持及び運用を継続する。
④基礎学力テストの実施・分析を継続実施し, その分析内容を教育改善に活かす。	基礎学力テストを, 入学後早期に実施する。その結果については, 学部・学科ごとに活用する。	基礎学力テストの結果は以下の通りである。 外国語学部:JCCオンライン 基礎学力判定テスト(2科目):94.5% 経営学部:模擬SPI試験:95.6% 英語運用能力評価協会英語プレースメントテスト:95.3% 人間学部:JCCオンライン 基礎学力判定テスト(3科目) 学部:92.1% コミュニケーション社会科学科:91.7% 児童発達学科:93.7% 人間福祉学科:91.6% 心理学科:90.9% 保健医療技術学部:JCCオンライン基礎学力判定テスト(3科目) 理学療法学科:100% 作業療法学科:100% 臨床検査学科:100% 看護学科:95.5%	各学部が選定した基礎学力テストを, オンラインあるいは対面で実施した。いずれも高い回答率であり, 学修指導の基礎データとして活用している。具体的な活用方法, 経年的な分析結果は, 当委員会で報告があった。F22:F23	全学教務委員会議事録	実施率維持及び運用を継続する。

2024年度 教務部(全学教務委員会)

PLAN(計画)
P:目標を策定, 実現するための具体的な方法を考える。
③学修成果アセスメントの実施:外部評価アセスメント(GPS-Academic, PROGテスト)の実施・分析を継続実施し, その分析内容を教育改善に活かす。学修成果アセスメントについて整理統合を目的に検討する。
④学修成果アセスメントの実施:基礎学力テストの実施・分析を継続実施し, その分析内容を教育改善に活かす。学修成果アセスメントについて整理統合を目的に検討する。

2023年度 教務部(全学教務委員会)(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定,実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異,実践した行動の評価・分析を行う。	評価の理由/課題/根拠データ等	A:課題や問題点についての改善,対策を行い,次への「PLAN」へ繋げる
⑤公開授業実施 学部ごとに運営方法・内容などの検討を行い,全学教務委員会で情報交換を行う。アンケート結果は当委員会で共有し,教育改善に反映する。	学部ごとに公開授業を実施した。アンケート結果は教務部で共有し,次年度の教育改善に活かした。	10月28日(土) 外国語学部:対面:7名 経営学部:対面:12名 アンケート回答数:1 人間学部:対面:16名(12組) アンケート回答数:16 2023年11月6日(月)~10日(金) 保健医療技術学部:対面:ふじみ野:14組、本郷:10名 アンケート回答数:21	全学部とも対面形式の公開授業を行なった。外国語,経営,人間学部は1日,保健医療技術学部は1週間を設定した。参加人数は外国語学部で7名,他3学部は10名を超える状況であった。アンケートは概ね肯定的であった。	出席者アンケート結果	参加率向上と教育改善に反映させる。
⑥「国際化に対応した地球市民の育成」,「永久サポート大学」実現に向けた対応 各学部・学科で,カリキュラム改編ならびに全学教養教育委員会,DX推進センターと連携し本学における教養教育・共通科目,データサイエンス科目群の内容・実施方法を検討する。リカレント教育の実施方法について検討する。クォーター制,100分授業の運用について検討する。	「国際化に対応した地球市民の育成」,「永久サポート大学」実現に向けた対応を検討した。 各学部・学科で,カリキュラム改編ならびに全学教養教育委員会,DX推進センターと連携し本学における教養教育・共通科目,データサイエンス科目群の内容・実施方法を検討した。リカレント教育の実施方法について検討した。クォーター制,100分授業の運用について検討した。		B's Vision 2024と関連して,「国際化に対応した地球市民の育成」,「永久サポート大学」に関する取組みを検討した。卒業生を対象としたリカレント教育の取組みについて確認した。データサイエンス科目群の設定,データサイエンス入門は全学必修化し大学特別科目として実施運用した。クォーター制,100分授業の運用について検討し概ねポジティブな見解が得られた。	全学教務委員会議事録 4学部履修要綱	関連する機関との情報交換及び連携を図る

2024年度 教務部(全学教務委員会)

PLAN(計画)
P:目標を策定,実現するための具体的な方法を考える。
⑤公開授業実施 学部ごとに運営方法・内容などの検討を行い,全学教務委員会で情報交換を行う。アンケート結果は当委員会で共有し,教育改善に反映する。
⑥その他 全学教養教育委員会,DX推進センターと連携しデータサイエンス科目群を含む全学共通科目の運用を検討する。教学IR室と連携し学修成果アセスメントの分析を実施し教育改善に活かす。分析方針は教学IR室と連携し検討する。学生の学修促進を目的とした柔軟な学年暦,時間設定を検討する。私立大学改革総合支援事業における教育関連項目を精査し実施の検討を行う。学修成果アセスメントの整理統合を行いアセスメントポリシーを作成する。